

2024年度 一般入試① 問題 (社会)



問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは今日の試験のために、たくさん勉強をしてきましたよね。でも、勉強をしながら、なぜ入試で試されるのが国算理社の「学力」ばかりなのか、疑問に思ったことはありませんか。例えば、「足の速さ」や「気持ちのよいあいさつ」が中学入試で評価されれば…と思う人もいるのではないのでしょうか。最近では学力以外の能力を評価する試験も増えていますが、今も多くの入試では学力が試されています。それはなぜでしょうか。一歩立ち止まって、少し考えてみることにしましょう。

①江戸時代までは、一般庶民が学力を試されることはあまりありませんでした。なぜなら、江戸時代まで日本には身分制度が残っていたからです。しかし、②明治維新以降、形式的には身分制度が廃止されたことで、多くの人々にとって努力することに意味が生まれてきました。というのは、努力次第で優れた学歴をつけることができ、生まれた家庭よりも高い収入を得て、経済的に豊かな生活を送ることができると考えられるようになったからです。特に高度経済成長期以降は、働く人々に学力や専門的な知識などがますます求められるようになっていきます。その中で、経済的余裕をもった一般家庭の多くは「努力の積み重ねこそが、豊かな生活につながる」と考え、子どもの学力を伸ばすために、塾や習い事に積極的に通わせるなど、教育にお金と労力をかけるようになっていきました。

勉強は自分の工夫で努力を重ねやすく、学力試験の点数はおおむね客観的であるため、努力の成果を学力で評価されることに対しては多くの人々が納得していました。また、学力には③多くの仕事にとって必要な能力が含まれるので、その水準が高いほど、大学や会社に評価されると考えるのは自然なことです。しかし、それを先ほどの「気持ちのよいあいさつ」で考えてみると、採点者の好みで点数が変わると思いませんか。例えばある人は「声の大きさ」が、別の人は「おじぎの角度」が一番大事だと考えるかもしれません。「気持ちいい」と感じる声の大きさも採点者によって違います。そうになると、採点者の好みという「運」によって自分の評価が変わってくることになるので、答えが1つしかなく客観的に点数化しやすい学力こそが、能力を評価する基準として、④多くの人々が納得する公正なものだと考えられてきたのです。

このような考え方は、現代の社会にも深く根付いています。2017年の「2021年度から実施される『⑤大学入学共通テスト』の国語・数学において記述式問題を導入する」という文部科学省の方針の発表を受けて起こった世間の混乱は、それを浮き彫りにした出来事でした。長らく続いた「大学入試センター試験」では「すべて選択式の問題で、解答を《写真》のようなマークシートに記入し、機械で読み込んで採点する」という方法であったため、この方針発表は入試システムの大転換を意味していました。しかし、発表を受けてすぐに⑥「共通テストに記述式問題を導入することで、試験の公平性が著しく損なわれる」として、導入への激しい反対が日本各地で起こったのです。その結果、文部科学省は2019年に記述式問題の導入の見送りを正式に決定しました。

著作権の関係上、非表示にしています。

一方で、多くの人々が、今までの学力重視の入試のあり方に疑問をもっているのも事実です。高度経済成長期以降の日本の教育における学力とは、多くの場合「知識の量」を意味し、勉強の努力を重ねるということは、多くの知識を覚えることでした。しかし、多くの知識を覚えたとしても、それは判断力や行動力、上手に人間関係を築く能力とは別です。そのため、1990年代以降、知識に偏った学力や試験は批判され、実際の社会の中でより役に立つ力を重視すべきであるという主張が多くなっていきました。こうした中、最近の大学入試は、積極的に知識以外の能力も評価するものに変化してきています。発想力や表現力、対話力などに加え、学級委員や部活動、さらには留学・ボランティアといった学校内外での経験などを評価する入試が増えてきているのです。⑦その試みは、学力というひとつの側面だけではなく、受験生の能力を総合的に評価しようとするものです。しかし、受験生にとっては選択肢が増えることにつながる一方で、現在のところ多くの課題を抱えていて、時には批判を受けることもあります。

いったい、どのような入試が望ましいのか、今後も議論は続きそうです。とはいえ確かなことは、この議論とは別に、みなさんがこの数年間の努力で獲得してきた知識と経験は、かけがえのないものだということです。そして、そうした努力の積み重ねの中で「点数化できない素敵な側面」をみなさんは多く培ってきているはずです。この入試でどのような結果になったとしても、4月からは中学生として、それぞれの場所で、その素敵な側面を家族や友人、先生たちにたくさん見せてあげてください。それらは間違いなく、みなさんがこれから公平・公正な社会を形作る上で、「点数」や「偏差値」、「学歴」よりも、はるかに価値があるものなのですから。

問1. 下線部①に関連して、江戸時代の教育について述べた文として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 全国各地の藩では、藩校とよばれる学校をつくり、武士の子弟を教育した。
- イ. 最も有名な学校といわれた足利学校は、藩校のひとつである。
- ウ. 江戸幕府は、中国で生まれた儒学という学問を尊重していた。
- エ. 寺子屋という私塾では、武士や僧侶などが先生をつとめた。

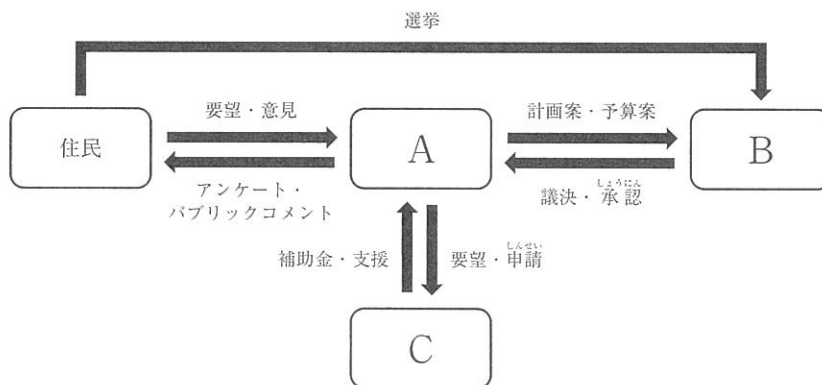
問2. 下線部②に関連して、明治時代に政府に国会を開くよう求めた運動の名前と、その運動の中で、多摩地域の若者たちが学習会を重ねて作った憲法草案の名前を、それぞれ答えなさい。

問3. 下線部③に関連して、古代の役人が仕事をする上で求められた能力などに関する記述としてふさわしくないものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 十七条の憲法に「地方の役人が勝手に税を取ることを禁止する」と書かれていることからわかるように、大和朝廷の指示に従うことが求められた。
- イ. 遣隋使や遣唐使として古代の役人が中国に送り出されていることからわかるように、中国の進んだ制度や学問を学んでいることが求められた。
- ウ. 税として納められた物産に付けられた木簡に物品名や地名などの文字が書かれていることからわかるように、文字を読み書きできることが求められた。
- エ. 藤原氏が政治の中心となっていく過程において平安京で戦がさかんにおこなわれたことからわかるように、馬に乗りながら弓を引くなどの武芸に秀でていることが求められた。

問4. 下線部④に関連した以下の問いに答えなさい。

- (1) 公正な社会を形作るためには、私たち一人ひとりに、社会の担い手という意識をもちながら地域社会やその政治に積極的に関わろうという姿勢が求められます。下の図は、地方自治（東京23区の場合）のしくみをまとめたものです。図中のA～Cにあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、次のア～カから1つ選び、記号で答えなさい。



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
A	国・都	国・都	区議会	区議会	区役所	区役所
B	区議会	区役所	国・都	区役所	国・都	区議会
C	区役所	区議会	区役所	国・都	区議会	国・都

- (2) 選挙の公正さに関して、議員1人あたりの有権者数に選挙区の間で大きな差が生じていることが問題であるとされています。以下の表に示すような選挙区Xおよび選挙区Yを例に考えたとき、どのような現象が生じやすくなるでしょうか。①～④の文のうち正しいもの2つの組み合わせを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

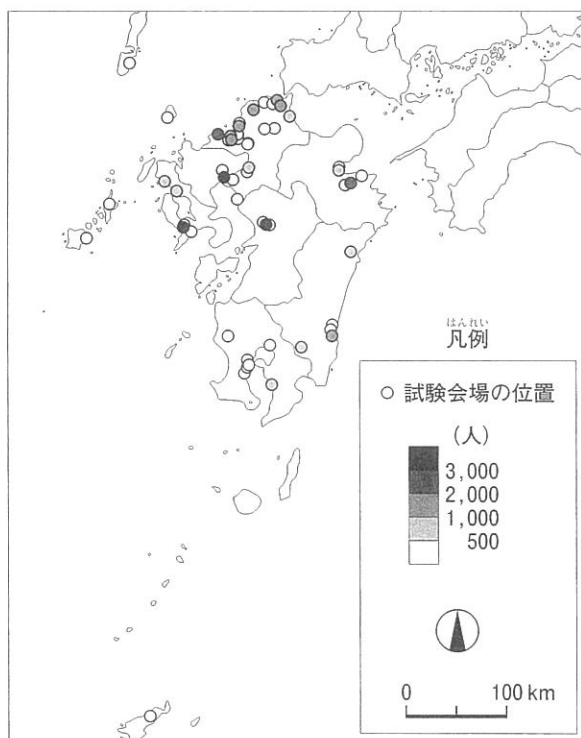
	有権者数	議員定数
選挙区X	4,000人	2人
選挙区Y	12,000人	3人

- ①選挙区Xの有権者は、選挙区Yの有権者に比べて自身の1票の価値が低くなっていると考え、選挙区Xに割り当てられる議員定数の拡大を主張するようになる。
- ②選挙区Yの有権者は、選挙区Xの有権者に比べて自身の1票の価値が低くなっていると考え、選挙区Yに割り当てられる議員定数の拡大を主張するようになる。
- ③選挙区Xで落選した候補者の得票数と、選挙区Yで当選した候補者の得票数を比べたとき、前者よりも後者の得票数の方が少ないという現象が起きやすくなる。
- ④選挙区Xで当選した候補者の得票数と、選挙区Yで落選した候補者の得票数を比べたとき、前者よりも後者の得票数の方が多という現象が起きやすくなる。

- ア. ①と③ イ. ①と④ ウ. ②と③ エ. ②と④

問5. 下線部⑤に関連して、大学入学共通テスト（2020年度までは「大学入試センター試験」）は例年1月に実施されます。また、受験生は、志望する大学とは関係なく、大学入試センターによって試験会場を指定されます。これをふまえて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 下の地図は、2020年度の九州地方（沖縄県を除く）の試験会場の分布と、試験会場ごとに割り振られた人数を示したものです。この地図から読み取れることとして誤っているものを、次のア～オから2つ選び、記号で答えなさい。



- ア. 大分県では、となりの県の試験会場の方が自宅から近い受験生がいると考えられる。
- イ. 熊本県では、場所によっては共通テストを受けるために直線距離で50 km以上移動しなくてはいけない受験生がいる。
- ウ. 福岡県、長崎県、鹿児島県では、一部の島にも試験会場が分布するが、それぞれの島の試験会場に割り振られた人数はいずれも500人を下回っている。
- エ. 佐賀県の試験会場は、すべて県庁所在地付近に集中している。
- オ. 宮崎県では福岡県よりも試験会場が少ないが、1か所あたりに割り振られた人数は多い。

(大学入試センター「令和2年度大学入試センター試験試験場一覧」より作成)

(2) 下の地図は、2016～2023年度の、交通機関の遅延や運休により試験開始時刻の繰下げがおこなわれた試験会場*を示しており、地図中の記号■・▲・●は、大雪、強風、人身事故によるいずれかの遅延・運休理由を示しています（◇はその他です）。遅延・運休理由と記号との組み合わせとして正しいものを、次のア～カから1つ選び、記号で答えなさい。



*同じ試験会場で同じ理由で2回以上繰下げがあった場合は、その回数分並べて記載している。

(大学入試センタープレス発表資料「繰下げ状況について」(各年度)より作成)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
大雪	■	■	▲	▲	●	●
強風	▲	●	■	●	■	▲
人身事故	●	▲	●	■	▲	■

問6. 下線部⑥について、共通テストにおいて、選択式の問題に加えて新たに記述式問題を導入することが検討された際に、多くの人々が「公平性が損なわれる」と考えたのはなぜでしょうか。本文や《資料1》～《資料3》からわかることをもとに、共通テストの特徴と、記述式問題の解答内容や採点方法の特色を明らかにしながら、190字以内で説明しなさい。

《資料1》共通テストの概要と、文部科学省による記述式問題の採点に関する想定

共通テストは毎年1月中旬に行われ、約50万人が受験します。共通テストの答えは大学入試センターに送られたあと採点されます。その点数は、受験生が受験した大学に2月上旬まで(試験日からおよそ20日以内)には提供されなければいけません。マークシートの場合、採点自体はすべて機械が行うので時間はあまりかかりませんが、マークシートは全国各地から集まってくるので、その集約やデータの整理をミスなく行うのに、20日間は決して余裕のある日数ではありません。文部科学省は、共通テストに記述式問題を導入した場合には、このようなスケジュールを変更しないことを前提とすると、1万人程度の採点者を動員する必要があると想定していました。

(文部科学省「大学入学共通テストにおける記述式問題の導入に係る検討経緯の整理」より作成)

《資料2》共通テスト(国語)で記述式問題が実施される場合に想定された採点基準

正答の条件

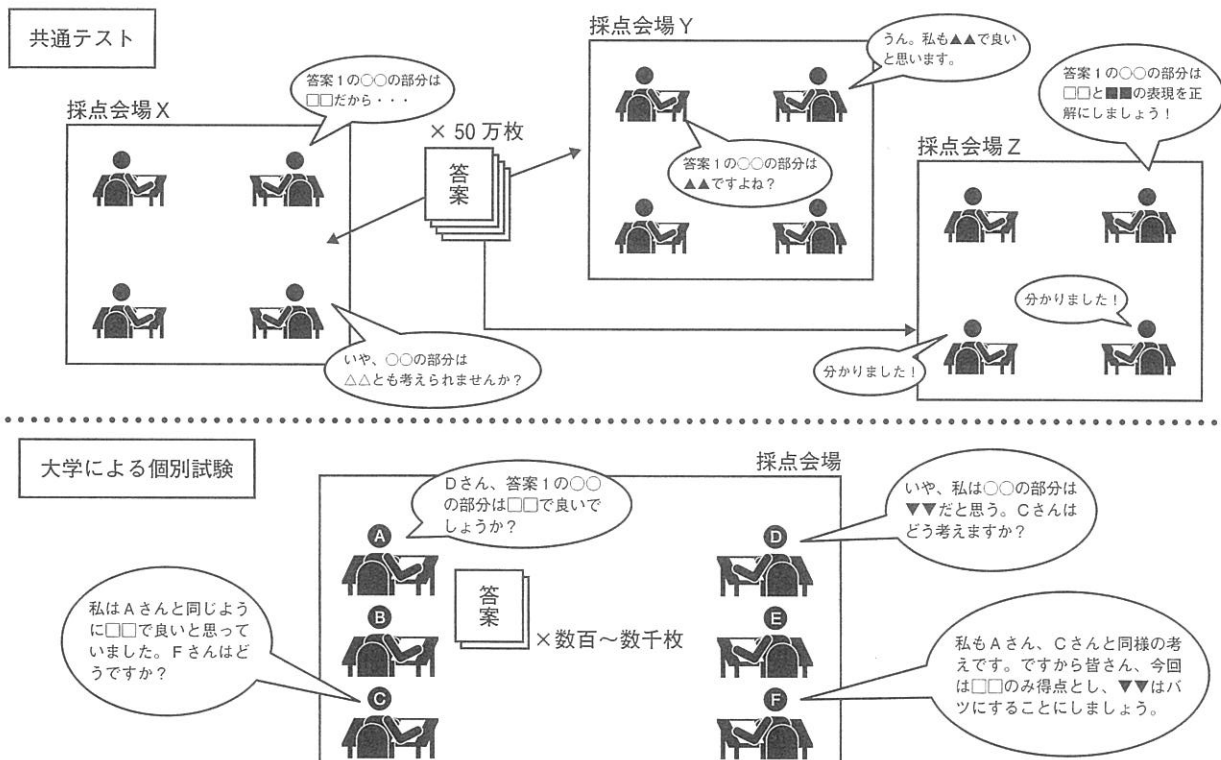
- ①80字以上、120字以内で書かれていること。
- ②二つの文に分けて書かれていて、二文目が、「それが理解できるのは」で書き始められ、「からである。」で結ばれていること。ただし、「理解ができるからである。」で結ばれているものは正答の条件②を満たしていないこととなる。
- ③一文目に、話し手が地図上の地点を示しているということが書かれていること。
- ④一文目に、話し手が指示しようとする対象が実際の場所だということが書かれていること。
- ⑤二文目に、次のいずれかが書かれていること。なお、両方書かれていてもよい。
 - ・指された人間の視点に立つということ。
 - ・指された人間と同一のイメージを共有できるとのこと。

正答の条件を満たしている解答の例

- ・話し手が地図上の地点を指すことで、指示されているのは地図そのものではなく、地図が表している場所であることが聞き手には理解できる。それが理解できるのは、他者の視点に立つ能力があるからである。(95字)
- ・地図上の地点を指して「ここに行きたい」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図の実際の場所である。それが理解できるのは、指された人間の位置に身を置くことで、指された人間が指された人間と同一のイメージをもつことが可能になるからである。(119字)
- ・地図上の地点を指して「ここに駅がある」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図に対応している実際の駅である。それが理解できるのは、指された人間が指された人間の視点に立つことで、実際に示したいものを想像するからである。(111字)

(大学入試センター「平成30年共通テスト試行調査 問題、正解等(国語)」より抜粋)

《資料3》共通テストで記述式問題が実施される場合に想定される採点のようすと、大学による個別の記述式試験の採点のようす



(文部科学省「大学入学共通テストにおける記述式問題の導入に係る検討経緯の整理」などをもとに想定し作成)

問7. 下線部⑦について、経験が評価される入試に対しては、実際にどのような批判があると考えられますか。学力テスト型の入試に対する人々の一般的なとらえ方にふれながら、本文や以下の《資料4》～《資料7》からわかることをもとに、160字以内で述べなさい。なお、解答には経験が評価される入試を「新型入試」、学力テスト型の入試を「従来型入試」と表記すること。

著作権の関係上、非表示にしています。

《資料5》 高校生の留学にかかる費用の目安

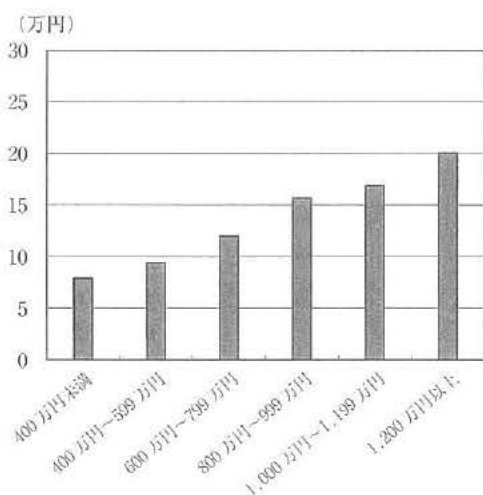
		期間	
		約2週間	約3カ月間
行先	アメリカ	45万円	160万円
	カナダ	35万円	130万円
	オーストラリア	35万円	130万円

*航空券は上記の費用に含まれない。

(ISA ウェブサイト「高校生の留学費用 出発前から帰国までに必要な費用について」より作成)

(<https://www.isa.co.jp/highschool/cost/>)

《資料7》 世帯年収別の、1家庭における1年間の学校外活動費* (子どもが公立小学校に通う家庭)



*「学校外活動」には、体験活動、地域活動、ボランティア、芸術活動、スポーツ活動、国際交流体験活動などが含まれる(塾や家庭教師などの学習補助費は含まない)。

(文部科学省「令和3年度子供の学習費調査」より作成)

著作権の関係上、非表示にしています。

